

月刊 社会保険 12

2019 VOL.833

一般社団法人
全国社会保険協会連合会



日本年金機構における広報

日本年金機構からのお知らせ

令和2年4月以降、さらに電子申請が利用しやすくなります!

協会けんぽからのお知らせ

【生活習慣病予防健診】令和2年4月1日受診分より協会けんぽへの申込みが不要となります。

経済・財政一体改革(社会保障改革)の取組状況

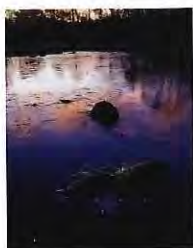
平成30年度 年金積立金の運用状況について—概要—

日本年金機構における広報	4
日本年金機構からのお知らせ 令和2年4月以降、さらに電子申請が利用しやすくなります!	9
協会けんぽからのお知らせ 【生活習慣病予防健診】令和2年4月1日受診分より協会けんぽへの申込みが不要となります。	10
経済・財政一体改革(社会保障改革)の取組状況	12
平成30年度 年金積立金の運用状況について—概要—	16
社会保険・労働保険の手続きと届出様式 第8回 雇用保険の資格喪失届	監修/社会保険労務士法人SKMオフィス 18
年金・健康保険委員活動報告 社会保険委員活動について	飯村 彰浩 20
持続可能な社会の扉を開けた人たち 第9回(後編) 障害を持つ豊かさの恵みが、持続可能な社会の糧となる。	社会福祉法人グロー(GLOW) 理事長 北岡 賢剛 株式会社朝日エル会長 岡山 慶子 22
日本とは異なるイタリアの高齢者事情 第8回 高齢者とカソリック教会	イタリア在住ジャーナリスト 西ヶ久保 徹郎 25
認知症を予防する② 第8回 ホスファチジルコリン/フラボノイド/グレリン	お茶の水健康長寿クリニック院長 白澤 卓二 28
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30/年金保険編 32/介護保険編 34/労働保険編 36	特定社会保険労務士 鈴木 ひろみ
書評 伊藤 之雄著『大隈重信—「巨人」が夢見たもの(上)・「巨人」が築いたもの(下)』	38

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・水森亜土、/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップルハウス/印刷・(株)エイエヌオフセット

表紙のことば——竹内敏信 「光の響」「水の風景」

福島県北塩原村小野川湖



水凍るこの季節。寒く、吐く息は白く、空気に広がっていく。指先から冷えだし、暖かくした家から出たくなくなる。しかし、自然風景に目を向けてみよう。木々は葉を落とし、どことなく寂しい雰囲気(かも)を醸し出し、道を歩けば霜柱を見つかることもあるだろう。

写真のように湖が凍り、美しい光を反射させている光景が見られるのもこの季節特有のものである。湖まで行かなくても、水溜りがあれば、それが凍り朝の光をあわせればそれだけで美しい。

冬の空気は澄んでいるので、特にきれいな輝きを見せてくれる。普段よく通る道でも、季節が変われば気温の変化だけではなく、自然も変化していく。それを感じるだけでもいいのではないだろうか。

© 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

社会保険委員活動について



飯村機電工業株式会社総務本部長

飯村 彰浩

●地域の紹介
茨城県では、10月8日まで45年ぶりに国体が開催され、県内各地で熱戦が繰り広げられました。県北地区の日立市でも、体操やバスケットボールなど競技が行われ、9月29日には、天皇、皇后両陛下も来訪されて、卓球競技を御覧になりました。

昭和14(1939)年9月1日に市制を施行した日立市は、今年で80周年を迎えます。人口は、17万6000人。工場が多く立ち並ぶ工業都市ですが、東には太平洋、西には山が連なっており、自然にも恵まれています。気候は温暖で、自然災害も少なく、大変住みやすいところです。

日立の名前の由来は、水戸黄門として親しまれている水戸藩第2代藩主徳川光圀公が日立地方を訪れた際、海から昇る朝日の美しさに、「日の立ち昇るところ領内一」と称えたという故事に由来するといわれています。日の出のみならず、夜には、水平線から昇ってくる満月や三日月も見ることができます。

日本さくら名所100選に選ばれている平和通りでは、毎年4月にさくらまつりが開催され、国指定重要有形民俗文化財ならびにユネス

コ無形文化遺産にも登録されている、高さ15メートルのからくり仕掛けの山車「日立風流物」が、満開の桜のもと、まつりを盛り上げます。

海水浴場は、6カ所。県内唯一の動物園「かみね動物園」では、キリンやペンギン、ヒグマにも餌やりができます。

当市では、昭和50(1975)年度から小学校に入学する新1年生に、ランドセルの贈呈をする事業を、40年以上にわたって行っています。

国民宿舎「鵜の岬」は、昨年度の宿泊利用率が、86・9%。公営国民宿舎の中で、30年間連続1位の座を維持しています。客室は、全室オーシャンビュー、最上階は展望風呂です。近くには、全国でここだけのウミウの捕獲地もあり、長良川など全国11カ所の鵜匠・鵜飼いに供給されています。鵜獲場が一般に公開されることもありますが、捕獲に支障のない時期のため、実際に捕獲するところは見ることができませんが、捕獲者から直接ウミウの生態や捕獲方法などについて、話を聞くことができます。

また、当市にあった鉾山の煙害対策がモデルになった、文豪新田次郎氏の小説「ある町の高い煙突」も、松

村克弥監督によって映画化、6月から公開され、多くの人が映画館に足を運び、人気を博したところです。

●会社の紹介

日立製作所創業の源泉となった、元久原鋳業日立鉾山工作課の電機修理工場。ここで当時工作課長の小平浪平氏(日立製作所創業者)のもとで働いていた飯村四郎は、日立製作所創業と同時にそのまま入社し、定年まで勤め上げました。

そして昭和19(1994)年、日立製作所の協力会社として株式会社飯村電工社を設立。その後、時代の要望により飯村電工社の一部門として冷凍空調の業務をスタートさせ、昭和34(1959)年4月に分社独立を果たし、飯村機電工業株式会社が誕生しました。

飯村機電工業は、今年で60周年を迎えます。当社は、60年にわたって建築設備の近代化・省エネ化とともに茨城県内の「快適な空間を創造する」をリードしてまいりました。

これからも創業者の技術者としての精神を忘れず、未来に向けてたゆまぬ努力をつづけ、地域社会の発展に貢献してまいります。

●社会保険委員の活動

日立社会保険委員会は、日立市、高萩市、北茨城市の3市のみで構成されています。県内で、地域が最も狭い委員会です。当委員会も、他の委員会同様、社会保険関係の一括適用などにより、委員の減少に苦慮しています。

理事、幹事も減少していて、業界に偏りが出ないよう、いろいろな業種の人に声を掛け、年金事務所ともにお引き受けいただける人を探しているところです。

当委員会では県外各地に出向いて、委員研修を行っていて、毎回多くの人に参加いただいています。理事、幹事以外の委員との交流、意見交換の場にもなっています。

当社に対しての委員活動は、従業員に、社会保険のしくみについて、定期的に説明することにより、制度を理解してもらうよう努めています。また、算定基礎による保険料変更や健康保険料率の改定などは、その都度周知しています。従業員のほとんどは、社会保険業務に携わっていません。年金に対しては、世代によって関心度が変わります。社会保険制度は、従業員のみならず、ご



飯村機電工業株式会社本社



飯村機電工業株式会社水戸支店

族にも関係してくることも多々あります。行政とのパイプ役として、積極的にアナウンスすることにより、より多くの人に制度を理解してもらおうことを当社は目指しています。

●おわりに

日立社会保険委員会は、地域の人だけでなく、他の委員会と協力して、よりよい委員会にするとともに、社会保険制度への理解を深めていただくよう、今後も広報活動に努

めていきたいと考えています。最後になりますが、全国の社会保険委員の皆様のご健勝と、益々のご活躍を祈念いたしまして、活動報告とさせていただきます。

(茨城県社会保険委員会連合会副会長 日立社会保険委員会会長)